



第153号

- 1. 「セレンディピティ」
- 2. 3. 特集1「友情」
- 4. 特集2「数学」
- 5. 新着図書紹介
- 6. 生徒図書委員の集い 図書館より

発行 仙台第二高等学校 図書委員会  
 宮城県仙台市青葉区  
 印刷 株式会社 郵 辨 社

# 「セレンディピティ」

校長 早坂重行

「ボールつてのはな、世良…、しぶとく諦めない奴の前に必ず転がってくるもんだよ。コレ、俺の持論。」

(GIANT KILLING vol. 06)

みなさんは「セレンディピティ」という言葉を知っていますか？この言葉は、「偶然と才気によって、さがしていなかっただけを発見する」ことを意味します。「セレンディピティ」の典型的な例として、「第一回ノーベル文学賞に輝いたX線の発見があります。レントゲン教授（一八四五～一九二三）は、ある研究に夢中になってゐるさなかに、光るはずのない場所においてあった蛍光板が光っているのだった。「はてな？」と不思議に思い、いろいろ工夫をこらして「才気」をふるってその原因を徹底的に追究して調べた結果、いままで研究し

ていたものとはちがった、まったく新しい性質を持つ放射線を発見しました。それをX線と名づけたのです。この発見の過程は、さきほどの言葉の意味に、びたりとあてはまったものであることがわかります。

さて、「ジャイアント・キリング」という言葉があります。『GIANT KILLING』というサッカーのマンガがありまから、見たり聞いたりしたことがあるかもしれません。今回紹介する本は、マンガではなく、「ジャイアント・キリング」をおこした人たちの話です。「ジャイアント・キ

リング」とは、「一番狂わせ、弱者が強者を倒す」の意味です。二〇一五年のラグビー・ワールドカップのイングランド大会において、日本代表が強豪南アフリカ代表に勝利しました。十年経ちましたが、私がこの十年で、最も印象に残っているスポーツでの勝負です。その日本代表を率いていたのが、エディ・ジョーンズです。エディ・ジョーンズヘッドコーチがワールド・カップまで日本代表をどのよう強化したのか書かれているのが今回紹介する『エディ・ウォーズ』です。

さて、自身の最大の「ジャイアント・キリング」について。県北のT館高校のハンドボール部の顧問の時に、新人戦の県大会で、第1シードの仙台H高校相手に思いもよらない勝利をあげたことがありました。中学校でハンドボール部があるのは、仙塩地区と大崎地区だけで、私が顧問をしていた県北のT館高校は全員ハンドボールを高校から始めた者ばかりでした。一方、第1シードの仙台H高校は、中学校時代の県大会優勝チー

ムから主力が何人も入っており、仙台H高校が勝つだろうと誰もが予想してました。ところがです。試合開始直後、こちらのキーパーが相手のシュートを次々と止め、ナイスセーブを連発したのをきっかけに、チームが乗ってきまが人らないため、ますます狙いすぎて外し、パスミスも目立ち始めました。そうすると、弱いと思われたチームが県選抜が何人もいるようなチームに勝ちそうになったことで、観客までこちらの味方として応援し始めました。あげくは自分のチームのふがいなさ、相手ベンチもゲームを平ばあきらめてしまふ、といった感じで、何と最後には、6点差をつけて勝つてしまいました。その後、T館高校は結局準決勝で敗れてしまいましたが、メンバー全員が高校になってハンドボールを始め、監督の私もまた審判はできるもののプレーの経験は全くない、そんなチームが県第3位となりました。私が紹介する『エディ・ウォーズ』には、「稀代の勝負師エディ・ジョーンズヘッドコーチ」が、日本代表の「選手たちを徹底的に追い込み、人生最大の負荷をかけ」、日本のみならず、世界のラグビー史に残る勝利についての詳細なレポートがあり、これからのみなさんの人生に示唆を投げかけてくれるでしょう。

ところで、みなさんの「ジャイアント・キリング」は何ですか？今、あんまりうまくいっていない人、もつともつと何かを成し遂げたいと思っている人、何か目標を持って頑張っている人、はたまた何かぼつとしない人の中で、「ジャイアント・キリング」をおこそうと考えている人はいますか？まずは小さくともいいですから、みなさん自身の「ジャイアント・キリング」を狙ってみてはどうですか？当時の日本代表のエース五郎丸歩選手は南アフリカ代表に勝った後、周囲から奇跡を起こしたと賞賛され、「ラグビー」に奇跡なんてありません。南アフリカが弱かったのではなく、日本が強かった」と述べています。「ジャイアント・キリング」には周到な準備が必要です。ここでは紙面の関係上、詳細は述べられませんが、T館高校が仙台H高校に勝ったのも、実はさまざまな準備がありました。

「セレンディピティ」も「ジャイアント・キリング」も用意周到な準備や粘り強さ、そして目前のものに集中する意識があつて、初めて生まれるものだと思います。教科的な学力やスキル・技術ももちろん大切ですが、そういった「気持ち」の部分が大きな発見、思いもよらない勝



冒頭のセリフは、マンガの『GIANT KILLING』の中の言葉でした。ベテランになり、控えに甘んじているフォワードの選手が若い後輩に言ったものです。みなさん、少々うまくいかないことがあっても、あきらめないで下さい。あきらめなければ、いつかコロコロと絶好のチャンスのボールが目の前に転がってきます。その時のためにしっかりと準備をして待っていてください。

参考文献  
 『セレンディップの三人の王子たち〜ペルシアのおとぎ話』  
 竹内慶夫編訳 二〇〇六年 偕成社文庫  
 『エディ・ウォーズ』  
 生島淳著 二〇一六年 文藝春秋